

◇ 第15回美しい石川を歩く ～芭蕉が滞在した山中温泉探訪～

誰もが気軽に実践できる日常的な体力づくりのひとつとして「歩くこと」を推進するため、自然や文化を楽しみながら歩く機会を設けています。今回は10月10日（木）「芭蕉が滞在した山中温泉探訪コース」にて歩く会を開催しました。天候特異日（以前の体育の日）の好天のもとで実施することができました。

集合時間を待ちきれないように参加者が山中球場に集まり、ボランティアスタッフ含めて37名で開会式と軽い準備運動ののちスタートしました。

34歳から79歳までの幅広い年齢構成。まずは、本日のテーマに因む「芭蕉の館」を目指しました。館長さんによる芭蕉にまつわるお話を聞き、山中温泉のシンボル「こおろぎ橋（行路危橋）」へ。たもとでは地元ガイドさんによる「山中節」を拝聴し、涼しげな木漏れ日の鶴仙溪を抜けて、あっという間にイベントを終えました。



【足取り軽くスタート】



【芭蕉と曾良別れの間@芭蕉の館】



【折り返し@こおろぎ橋】



【木漏れ日@鶴仙溪】



【もうすぐゴール@黒谷橋】

松尾芭蕉と山中温泉

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」の書き出しで有名な松尾芭蕉のおくのほそ道（西行五百回忌の年に、門人曾良を伴って江戸から東北を経て美濃大垣までの旅の紀行作品）。

その曾良と道半ばで別れた地が山中温泉。

元禄期に活躍した俳人芭蕉は、山中温泉に逗留中たくさんの俳句を詠んでいます。